

「人を裁くこと」

愛知県弁護士会西三河支部長
弁護士

山本 健司 氏



教育随想



平成21年5月1日

5月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
愛知県弁護士会西三河支部長 弁護士	
山本 健司氏	
この人に聞く	2
ワタナベ鯉のほり三代目店主 渡辺 要市氏	
羅針盤	2
前図工・美術科指導員 杉原恵美子	
ふれあい	3
小豆坂小 浦野 茜 竜海中 兼松みなわ	
特集	4
子供たちが集う情報基地 岡崎市図書館交流プラザLibra	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
誕生(昭和52年)	
この本を	8

平成二十一年五月二十一日以降に
起訴される一部の刑事事件につい
て、裁判員制度による裁判が、いよ
いよ開始されます。

裁判員制度は、国民の司法参加に
より市民が持つ日常感覚や常識とい
ったものを裁判に反映するとともに、
司法に対する国民の理解の増進とそ
の信頼の向上を図ることが目的とさ
れています。

ところで、裁判員制度による裁判
の開始が近づいてきた頃から、人を
裁く立場になることへの不安や責任
の重さに戸惑う市民の声を、私は耳
にすることが多くなりました。これ
まで刑事訴訟に関する知識や理解の
乏しい一般市民が、いきなり大きな
責任を負わされるわけですから、無
理からぬことと言えます。

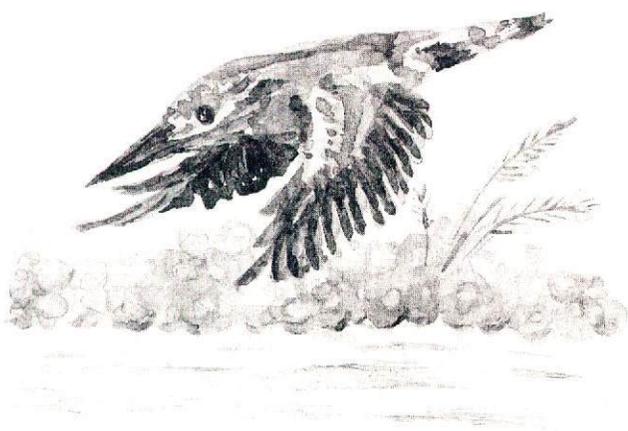
しかし、制度が開始される以上、

一般市民にも刑事訴訟に対する理解
を深めていただかなければなりません。
これは、いずれ成人に達して裁
判員になる小中学生・高校生も同様
です。むしろ、教育を受ける場から
離れてしまった大人よりも、学校と
いう場で知識を学んでいる子供たち
の方が、刑事訴訟についての適正な
理解を深めるのは早いかもしれませ
ん。

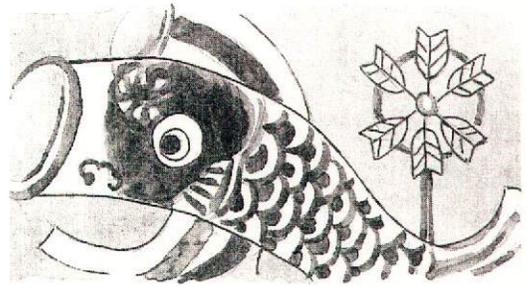
例えば、刑事訴訟における原則
(証拠裁判主義、伝聞証拠の禁止、
自白の補強法則など)は、一見する
と難しそうに思えますし、これまで
子供の教育現場では取り上げられる
こともなかったでしょう。しかし、
どれも万国共通の歴史(魔女裁判の
悲劇等)の積み重ねから築き上げら
れてきたものです。そのような原則
が作られてきた歴史的背景を、教育

現場で子供たちに教えていただくこ
とで、裁判員制度は真に有意義なも
のになっていくと、私は考えていま
す。

(やまもと けんじ)



ふるさとシリーズ この人に聞く



伝統の鯉のぼりを未来へ

ワタナベ鯉のぼり三代目店主

渡辺 要市 氏

「木綿の鯉のぼりの良さ、風合いというものは、実際に揚げてみると分かるんです。温かみがあつてね。」

大正元年から続く鯉のぼり店。約三十年ぶりに木綿製手がきの鯉のぼりを復活させた店主の渡辺要市さんは、笑顔で語った。もち米とぬかを練った防染のりで下絵をかき、色付けやぼかしの技法で染め上げる工程はすべて手作業。江戸時代より伝わる匠の技である。

渡辺さんが子供のころには、戦後復興、ペビーブームという時代背景のもと、鯉のぼりの生産は需要に追



いつかないほどであった。昭和四十年、合織ナイロン製の機械プリントの鯉のぼりの製造を始め、全国に向けて大量に出荷するようになる。手がきの鯉のぼり部門は、製造中止にした。中部地区の鯉のぼりは、「黄腹」といって腹の部分が黄色であるのが特徴だったが、全国用の生産の中でそれも消えていった。

平成三年。渡辺さんは三代目店主となる。

「自社の特徴ある商品として、あえて大量には作れない、手がきの鯉のぼり、木綿製の鯉のぼりを復活させようと考えました。昔を懐かしみ、手がきでなくてはと、こだわる人の声も大きくなっていました。その要望にこたえたいと思つたのです。」

もちろん、簡単にはいかなかったが、幸いなことに店には昔の手がきの技を持っている職人がいた。その職人たちに手がきの手法を伝承してもらおうと渡辺さんは考えた。しか

し、技術を伝える職人は高齢であった。そのため、今を職人の転換期ととらえ、熟練の職人に、新人と一緒に現場に立って、技を伝えてもらうことにした。さらに、以前は、一人の職人の受け持ちは一部分だけであったが、今後は、全工程を一人で把握できる職人を育てたいとも考えているという。

日本鯉のぼり協会の会長も務める渡辺さんは、これからの鯉のぼりの普及にも心を砕く。

「桃の節句のおひな様を静のものとするならば、大空を泳ぐ鯉のぼりは動のものです。一時も同じ形はしていません。それが、子供の心をとらえるのです。若いお父さん、お母さんには、鯉のぼりを揚げた時の子供の笑顔を見てほしいのです。」

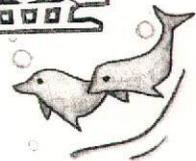
子供たちに感動の記憶を作ることが、新たな伝統につながるという。

「節句のお祝いをするのは、日本人のDNAに組み込まれていることだと思ふんですよ。鯉のぼりを見上げて喜ぶ子供たちの心を大切に守り、育てていきたいですね。」

未来の日本の空にはきつと、温かみのある伝統的な手描きの鯉のぼりがたくさん泳ぐことだろう。

氏名 わたなべ よういち
生年月日 昭和二十三年九月十四日
住所 岡崎市唐沢町

羅針盤



感性のスイッチをONにして

前図工・美術科指導員 杉原恵美子

今日の授業を振り返ってみる。子供たちにとって「やりたい」授業、「やらなければならない」授業、「やらされる」授業、どれだったか。「やりたい」授業は、感性のスイッチを入れる導入、夢中の持続を促す支援、よさを認めイメージを深め広げる鑑賞で成り立つ。

「うわあ。」

二メートル程もある「岡本太郎作太陽の塔」の模型を背負って出てきたA先生に、子供たちの目が釘付けとなる。自作の太陽をその模型に今すぐ貼ってみたいという気持ちが伝わってくる。そして丸められた紙を開くと、先生の描いた木が床一面に広がった。その上に自作の太陽をわれ先に置き、うれしそうに眺める子供たち。先生が子供たちの遊び心に火をつけた瞬間を垣間見ることがで

話す楽しさ

小豆坂小 浦野 茜

英語の授業を始めて五か月、A男は教師の発音をきちんと繰り返し、会話文もすらすら言える。しかし、不特定の相手と話す段階になると、自分から話しかけることがほとんどできない。恥ずかしがりやな性格が大きく影響しているのだろう。A男はいつも「進んで声をかけられなかった」と、授業後の感想に書いていた。そこで、今までの自分で相手を探して会話するゲームから、あらかじめ会話する相手を決めてインタビュールするゲームに変えることにした。これならA男も確実に会話ができるだろう。

今までのA男なら、相手を見つけれず、小さな声で話しかけることしかできなかった。しかし、今回は、だれに話しか決まっているため、迷わず相手に話しかけることができた。そして、最後の教師との一対一の会話では、今まで自分から列に並ぶことの少なかったA男が、珍しく一番に列に並んだ。

[May I ask you something?]

[yes]

[Do you play the guitar?]

[yes]

わたしの目を見て会話ができた。「今日、おれいっばい話したわあ。」A男がだれにもなくつぶやいた。

A男の感想には、「いつもより多く、みんなと話せて楽しかったです」とあった。やっとこの一言を聞くことができた。

この授業をきっかけにして、A男は少しずつ自分から友達に話しかけることも増えていった。



さくら

竜海中 兼松みなわ

ハート型。体育大会の伝統ある集団演技「さくら」で、今年のフィナーレの隊形として生徒が考えた案である。私は、生徒の思いを生かすため、どのようにハートを表現しようか、どのような人数配置にしようかと、懸命に考えた。だが、実際に生徒を動かしてみると、うまく組み合わせられない。私の焦りで、生徒た

ちはざわついた。「うるさい！」

主任が声を張り上げた。

「兼松先生は夜遅くまで君たちのために必死で考えたんだ。上手いかわりに苦しんだのがわからんか。」

我慢の糸が切れ、熱い涙が頬を伝った。一時間かけて、なんとかハート型は完成した。休憩中、「先生、大丈夫」「わたし、頑張るよ」と、声をかけてくれる生徒たち。

練習再開。

「ハート型がなかなかできなくて、ごめんなさい。みんなからの案だし、絶対作りたかった。時間はかかったけど、やっとできた。「さくら」を絶対成功させよう。」

私は、生徒たちに語りかけた。学年みんなの心が動き始めた。

当日、指揮台で全員と目が合う。様々な思いのこもった「さくら」、フィナーレはきれいなハートがまぶしく完成した。「よし退場」と思った瞬間、一人の生徒が花束を抱えて指揮台へ走ってきた。全員が叫んだ。

「みなわ先生ありがとう。」

思わず声を上げて泣いてしまった。これからも、生徒と共に歩む教師でありたいと強く思った。



きた。手作りの教具や参考作品がいかに子供たちを引きつけることか。黙々と空き箱で家をつくる一年生。

その一人一人にB先生は声をかける。十八分の間に、クラス全員の子と個別に対話するだけではなく、困っている子の補助もしていた。夢中を持続させる支援が適切で温かい。安心して制作できる場がそこにはあった。

様々なタッチで描かれたゴッホの自画像四枚をC先生は提示した。それをじっと見つめる中三の生徒たち。話し合っていく中で、自画像を描くことは、単に顔を写す作業ではなく、テーマがあり、描いたときの気持ちや人生の背景、その人らしさが表現されていることに気づく。この鑑賞の時間に抱くイメージが生徒自身の表現にも生かされていく。

授業を考えるとき、子供たちが飛びつくような題材、活動しやすい場、十分な材料・用具を用意すれば、子供たちは主体的に学びとる。さらに「この活動を通して、どんな力をつけるか」に主眼を置くことで学びを裏づけたい。そして図工・美術科だからこそ、教師の仕掛けで、子供たちが感性のスイッチを自らONにし、活動そのものを思いっきり楽しむことができるような授業を目指したい。



子供たちが集う情報基地

岡崎市図書館交流プラザLibra

▲パソコンで貸し出し手続き（夏山小）

平成二十年十一月一日、「岡崎市図書館交流プラザLibra（りぶら）」が開館した。

開館までには多くの市民が、設計や管理運営の計画などにかかわり、小中学生も参画して、彼らの提案した意見が取り入れられた。グループ学習室や研究個室、交流スペースや芝生広場などの飲食休憩の場所が新しく作られ、旧図書館では二席だったインターネット席は二十席に増設された。

開館当日は、連尺小の五・六年生が鼓笛パレードを行い、城北中オーケストラが演奏をして、オープニングに華を添えた。また、城北中生がオープニングのスタッフの一員として参加し、チャリティーバザーを開いて、入場者に協力を呼びかけた。

一月からは、団体見学の受け入れも始まり、小中学生が利用している。例をあげると、図書館では、職員から利用方法の説明を受けたり、本を借りて総合学習の課題追究をしたりしている。岡崎むかし館では、人々の暮らしの移り変わりや祭りなどを、実物や写真を見て学ぶ姿がある。ホールでは、学習発表会や読書感想文コンクールの表彰式が行われた。また、ギャラリーでは、書き初め展が開催された。

午後九時まで開館を延長するようになり、仕事から帰宅する保護者を待って、保護者と一緒に訪れる小中学生の姿も見かけるようになったという。

開館から半年。さまざまな点で充実した「りぶら」を、授業などでも、大いに活用していきたいものである。



開館当日の鼓笛パレード（連尺小）



開館当日のバザー（城北中）

お知らせ



●教科書採択

○教科書展示会の開催

教科書展示会が、県内二十か所の教科書センターで開催される。岡崎市では、中央図書館（岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」内）で開催される。展示期間は、六月十一日から七月五日までである。

本年度は、中学校の教科書の採択の年になる。ただし、二十年度の中学校教科書検定には、発行者からの検定申請がなかったため、原則的には現在使用している教科書になる。

○教科書改訂の予定

新しい学習指導要領が、小学校では二十三年度、中学校では二十四年度に全面实施される。これに併せて、教科書が改訂される。そのため今年

度は、小学校教科書の検定の年にもなる。そして、二十一年度は、小学校教科書の採択、中学校教科書については、検定が行われる予定である。

●教員免許

○教員免許の更新

平成二十一年四月からの教員免許更新制の実施により、平成二十一年三月三十一日までに授与された教員免許状（教員免許状・養護教諭免許状）を持って、教員（講師も含む）として勤務する者は、各自の終了確認期限までに三十時間以上の免許状更新講習を修了し、手続きを行うことが必要になる。

申し込みは、免許状更新講座を開設する大学のホームページをとおして、各自が責任をもって行うことになる。

○小・中の一種免許取得

平成二十一年度の認定講習の応募者は、幼・小・中を合わせて、百二十八名であった。教育職員免許法第九条で、一種免許状の取得努力義務が課せられている。また、小学校・中学校の両方での勤務という人事上の方針もあり、小・中両免許取得を希望している人が増加している。

現在、隣接校種（小学校教員なら幼稚園と中学校）の免許取得で、優遇措置が講じられており、ぜひ、小・中の両免許を取得するようにしてほしい。

○免許状の種類

免許状の種類は、主に「専修」「二種」「二種」の三段階である。教員を続けながら免許を取得する方法としては、大学の通信教育で所定の単位を修得する方法と、認定講習等で単位を修得する方法がある。

○免許状の申請

免許状の申請には、主に次の四つが挙げられる。

- ① 上位免許状の申請

② 他教科の免許状の申請

③ 特別支援学校免許状の申請

④ 隣接校種の免許状の申請
在職年数に応じて、必要単位数が削減されたり、教育実習が免除されたりしている。

※①の上位免許状申請は、県が五月から十二月まで取り扱う。年度内に希望する場合は、十一月末までに提出したい。

※②③④の免許を年度内に希望する者は、一月末までに提出したい。

○栄養教諭普通免許状

平成十六年より、免許法等の一部改正に伴い創設された。平成二十年度は、五名が免許を取得している。

○教育職員免許法認定講習

申込書は、毎年五月中旬に配付を予定している。

講座数は、約二十五講座
一講座当たり一単位
講座は、八月の指定日

※詳しくは、岡崎市教育委員会学校指導課 免許担当まで、ご連絡ください。

●平成二十一年度校長会役員

＜小学校長会役員＞

会長	神尾 光伸（梅園小）
副会長	松井 伸市（根石小）
	菅沼 国雄（葵 中）
	河合 安男（北 中）
顧問	岩月 慎自（南 中）
会計監査	江坂 良夫（岩津小）
	渡辺 邦夫（新香山中）
庶務	鈴木 由郎（甲山中）
	三浦みどり（六名小）
庶務補佐	野々山宏司（竜海中）
会計	酒井 久男（城北中）
	野勢 明（小豆坂小）
会計補佐	小林 義孝（三島小）
評議員	桑木富士子（福岡小）
	原 博司（生平小）
	加藤 博史（矢作西小）
	市川 修（矢作南小）
	平松 敏明（下山小）
	大岡 久芳（羽根小）
	山中三江子（美合小）
	安藤 真好（上地小）
	鈴木 純子（連尺小）
	石川 守彦（奈養塾）
	坂井 節（東海中）
	山本 悟（六北中）
	山田 賛平（額田中）

高橋 鏡二(竜南中) 生徒指導 柵木 智幸(矢作北中)
 鈴木 栄二(美川中) 特別支援 安藤 眞好(上地小)
 栗田 錦治(矢作中) 広報 石川 昌幸(常磐小)

●平成二十一年度特別委員会

小学校長会
 会長 松井 伸市(根石小)
 副会長 平松 敏明(下山中)

会計監査 原 博司(生平小)
 庶務 江坂 良夫(岩津小)
 大岡 久芳(羽根小)

会計 安藤 眞好(上地小)
 会計補佐 石川 守彦(六ツ美中)

中学校長会
 会長 菅沼 国雄(葵 中)
 副会長 河合 安男(北 中)

会計監査 渡辺 邦夫(新香山中)
 酒井 久男(城北中)
 庶務 野々山宏司(竜海中)

会計 山本 悟(六北中)
 会計補佐 坂井 節(東海中)

専門委員会委員長
 法制 坂井 節(東海中)
 理財 酒井 久男(城北中)

給与 山本 浩二(岡崎小)
 文教 内田 義和(岩津中)
 進路 犬塚 尊夫(六ツ美中)

研修 山本 悟(六ツ美中)
 保体 河合 安男(北 中)
 福安 権田 隆志(大樹寺小)

給食 渡辺 邦夫(新香山中)

・市民大学運営委員会
 ・月報「岡崎の教育」編集委員会
 ・教員の研修に関する委員会
 ・学校環境緑化推進委員会
 ・情報教育推進委員会
 ・行事・部活動研究委員会
 ・いのちの教育推進委員会
 ・郷土読本編集委員会
 ・小学校英語研究委員会
 ・授業改善委員会
 ・学校評価(OC)委員会
 ・総合学習センター設立委員会
 ・子ども科学館設立委員会
 ・外国人児童生徒教育推進委員会

・環境教育研究委員会(新規)
 ・教育史要VI編集委員会(新規)

その他の関係委員会等

・岡崎市特別支援教育連携協議会(市中学校特別支援学級進路指導委員会)

・岡崎市就学指導委員会
 ・岡崎市いじめ・不登校対策協議会

●平成二十一年度研究発表校

○矢作北中学校 市委嘱
 六月十七日(水)

「自他の命を大切にし、よりよい人間関係ができる生徒の育成―道徳と特別活動におけるかわり合いを中心とした授業を通して―」

○矢作北小学校 市委嘱
 六月二十四日(水)

「いのちの教育 育もう Heart Warmming 矢北っ子―SSTと授業による人間関係づくりをすすめる、いのちの大切さを認識できる子の育成―」

○美合小学校 市委嘱
 十月二十一日(水)

「自ら学び、考え、表現する美合っ子の育成―知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を高める国語科の学習指導―」

○羽根小学校 全国大会
 十月二十七日(火)

「伝え合い、練り上げる授業―メディアのわくわくする利用を通して―」

○甲山中学校 全国大会
 十月二十七日(火)

「思いやりあふれるコミュニケーションを創造する生徒の育成―情報メディア機器を活用した、互いに学び合う学習を通して―」

十一月十七日(火)

「生徒の学ぶ力を鍛える授業の創造『わかる学習指導』第九次研究・三年次」

○根石小学校 自主
 十一月二十七日(金)

「ひびく読み声 ふれあう心 いのち輝く読書活動」

※十月十六日(金)
 東海北陸 技術・家庭科 大会(城北中会場)

●平成二十一年度学校訪問

◆岡崎市教育委員学校訪問

・常磐東小学校 五月 十四日

・常磐中学校 五月 二十一日

・城北中学校 六月 二十五日

・常磐小学校 九月 十七日

・六名小学校 九月 二十四日

・上地小学校 十月 八日

・額田中学校 十月 十五日

・大門小学校 十一月 二十六日

・小豆坂小学校 一月 二十一日

・常磐南小学校 一月 二十八日

・六ツ美南小学校 二月 四日

◆指導員合同訪問

・羽根小学校 六月 十八日

・岩津中学校 六月 十八日

・広幡小学校 十月 二十二日

・六ツ美中学校 十月 二十二日

・竜谷小学校 十一月 十九日

・奥殿小学校 十一月 十九日

・葵中学校 十一月 十九日

◆県教育委員会訪問

○特別支援教育課訪問

・大樹寺小学校 十一月 十九日

・矢作中学校 十一月 十九日

○教職員課訪問

・井田小学校 十月 七日

※研究発表校、指導員の合同訪問校及び県教育委員会の訪問がある学校以外は、主事訪問を行う。

・カ
ツ
ト
額
田
中
山
口
泰
代

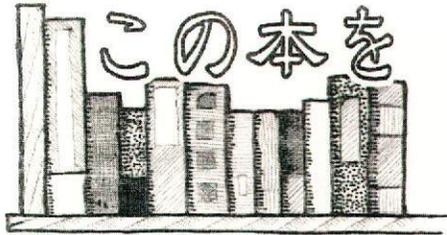
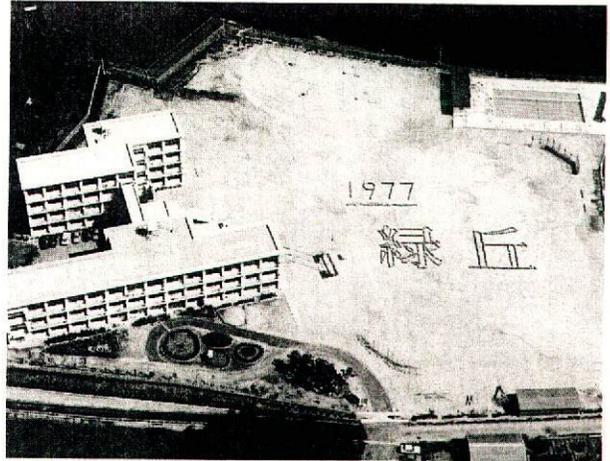
誕生 (昭和52年)

写真提供：緑丘小学校

緑丘小学校は、昭和五十年四月、市内三十五番目の小学校として開校した。開校当初の児童数は五百五十七名、十六学級のスタートであったが、南校舎一棟だけしかなかったため、三・四年生は美合小学校に間借りするという困難な出発であった。

写真は、開校から二年後の緑丘小学校の全容である。北館とプールが増築され、運動場も拡張されている。また、児童数も年々増加し、昭和五十八年には千百人余りに急増している。

岡崎市では、昭和四十八年ごろから各種事業所の進出が相次ぎ、優良な宅地が生まれた。それに伴い市営住宅の建設、バス路線の開通などもあって、住宅地の急増が進み、多くの小中学校が新設されていくことになる。



- * 大人の見識 阿川 弘之 新潮新書 ¥714
- * 忘却の力 外山滋比古 みすず書房 ¥2,730
- * 観月観世 曾野 綾子 集英社 ¥1,400
- * 子どもも親も幸せになれる 校長先生の言葉 生活文化編集部編 集英社文庫 ¥590

- * 人間の覚悟 五木 寛之 新潮新書 ¥680
- 『大河の一滴』の読後もそうだったが、宇宙にある命の大きな流れを感じることもできる一冊である。
- 万物の命に「畏れ」の念をもとうとした日本人の伝統的心性こそ、新しい思想とある。環境教育に生かせようだ。
- トマス・アキナスの「我在り、ゆえに我思う」を引いて、ただそこに生きていることに無限の価値があると述べる。命の実感が薄い時代であって、命の教育に生かせようだ。
- 下り坂の時代に読んで、覚悟ができる。
矢作東小 山田 禮子

温故知新。昔ながらの手染めの鯉のぼり。技を伝えるのは昭和を知る職人であり、今筆を握っているのは、若い職人である。三河木綿で作られていた鯉のぼりは、はっ水加工を施し、雨に強く保存しやすい布製になった。伝統は受け継ぐだけでなく、作っていくものだ。と知る。

静かな時が流れる。むかし館では、児童たちが昔の暮らしを伝える道具類や写真に見入り、話に耳を傾けている。図書館では、生徒たちが読書や調べ学習のために、真剣なまなざしを本に向けている。子供たちだけでなく、我々教員も「りぶら」を大いに活用し、自己研鑽に努めたい。

シ オ ス ア

新しく裁判員制度が五月二十一日から始まる。裁判員が加わることにより、裁判に対する国民の理解が深まり、司法への信頼も高まることが期待されている。学校では、今まで以上に常識ある人を育てることが求められる。使命感をもって子供たちと向き合っていきたい。

すっかり新しい環境にも慣れ、いよいよ子供たちが躍動し始める。ついこの間まで、背中を丸めていたのに、飛び回る子供の額には汗がにじむ。運動会や総合体育大会と、身体を動かして成長できる行事も近い。新芽のように伸びていく子供たちは見ていると胸がすく。